

千葉県日中友好協会

第 17 号

2024 年 2 月 29 日

活動ニュース

発行 千葉県日中友好協会

編集責任者 布施貴良

事務局 千葉県美浜区高洲 3-4-12-101

電話 043-277-1212 FAX 043-278-9966

E-Mail : m-fuse@mvh.biglobe.ne.jp

千葉県日中友好協会 2024 年次総会
一日中平和友好条約(1978 年)の精神に
立ち返り着実な友好活動の推進を確認一



市日中友好協会は、2024 年次(令和 6 年)の定期総会を 2 月 10 日(土)午前 10 時から千葉県教育会館 604 会議室で Zoom とハイブリッドで開催しました。議長に千葉県議会議員の段木和彦氏が選任され開会しました。

冒頭、布施貴良会長から「会場および Zoom での総会への出席に感謝します。今後も民間からの日中友好活動が大切です。一昨年暮れには、天津市内大学生と千葉市内千葉大、神田外語大の学生が千葉市・天津市の協議で交流を Zoom で行った。また昨年は平和友好条約 45 周年で千葉県日中主催の講演会に参加し、千葉市日中独自の取り組みとして、愛新覚羅溥儀・溥傑兄弟の生涯を綴った「転生」の著者で千葉市在住の牧久氏を囲む懇話会を開催した。今後も会員の皆様と協力して様々な活動に取り組み会員拡大を実現したい。」と挨拶がありました。

ご来賓として衆議院議員たじま要様、神谷俊一千葉市長代理市長公室長西公厚様、千葉県日中友好協会小野崎一男様からご挨拶を頂き、千葉市国際交流課課長平田美智子様、県議会議員川村博章様、同秋山陽様、千葉市議会議員吉川えいじ様をご紹介いたしました。また、お祝いメッセージを衆議院議員法務副大臣門山ひろあき様から頂き議長がご披露いたしました。(裏面に続く)



ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお
願いします

会 長 川村 博章

さてこのたび、布施貴良さんの跡を受け、千葉県日中友好協会の会長となりました。

ちょうど今は、日本と中国の国交が回復してから 50 余年が過ぎ、日中平和友好条約締結からもう間もなく 50 年を迎える時期にあたります。

現在の中国は、GDP でも日本を越える大国になり、政治や経済等の日中関係、お互いの国民感情は大変微妙な環境下にあると思います。

ただ中国は、日本の隣国であり、同じように漢字を使い、仏教や箸を使う食文化であることなど他の国々と比べ、生活様式、文化面などで近い国であることは変わらないと思います。

これまで諸先輩が大変なご苦労・ご努力の中で築かれてきた千葉県日中友好協会の数々のご功績、ご事業を引き継がせていただきながら、本会の目的である「日本中国両国民の相互理解と友好を深め、日本とアジア及び世界の平和と繁栄に貢献すること」に努め、地域における草の根の国際親善・友好活動を推し進めて参る所存ですので、是非、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

その後議案の提案と審議に入り、第1号議案 2023年次経過報告、第2号議案 2023年次決算報告と会計監査報告について、第3号議案 2024年活動方針（案）及び第4号 2024年予算（案）提案について、第5号議案千葉県日中友好協会役員選任（案）について、それぞれ全会一致で、可決されました。

審議の中で、布施会長より正会員について今年田嶋衆議院議員をはじめ4名の正会員を迎えることが出来たこと、今年次正会員50名、賛助会員100名を目指したい。報道などでは、残念ながら、中国のよい所は小さく、悪い所を大きく報道等されている。中国経済のこれからの動向をzoomなどで勉強する機会を設けていきたい。早速の活動では、春節を祝う会を本日中華料理店「永興」で、4年ぶりに開催する。また1泊のサマーツアーの実施や従来は日帰りの秋のバスツアーを留学生側の要望があったので、1泊にしたいと思っている。また中国の認識を深めるため千葉大学の先生の講演や中国からの訪問団の受け入れをしていく。今年は日本から中国への訪問団を実施したい。中国留学生との交流では、卓球、ボーリング等のスポーツ交流を検討していきたい。以上のような説明と今後の決意が話されました。

また、越智理事から、3号議案の交流団受け入れについて、長沙市政府が千葉市訪問を希望している。まずはオンライン交流をしたいとの意向があるとして対応を求める意見があり、布施会長からは是非オンラインでの交流を検討する。また、今まで千葉市と友好都市であった蘇州市呉江区について、千葉市と蘇州市との友好都市に格上げすることを取り組む」と答えました。

第5号議案の千葉県日中友好協会役員選任（案）が可決された後、新会長の川村博章千葉県議会議員から就任の挨拶があり、新役員と共に決定された活動計画に基づき、全力で友好活動に取り組む会員拡大に努めますと決意表明がありました。新たな役員としては、理事会計監査に秋山あたる県議会議員、同会社役員徐躍進氏、顧問に衆議院議員田嶋要氏と会長を退任した布施貴良がそれぞれ就任しました。

その後、参加者は4年ぶりの開催となった、「春節の集い」を行うため会場に向かいました。

4年ぶり開催の「春節の集い」留学生を含め25人参加で盛り上がる



2020年から新型コロナウイルス感染症で開催出来なかった「春節の集い」を、4年ぶりに中央区の中華料理店「永興」で開催しました。

会場には、会員の他千葉大学中国人留学生、湖南大学交換留学生を含め25名が参加し、久々の開催に一同大いに盛り上がりました。西千葉市市長公室長、平田国際交流課長も総会に引き続き参加を頂き懇談の輪を広げて頂きました。公務で総会に参加できなかった奥野総一郎衆議院議員も駆けつけ、一衣帯水の隣国であり長い文化的交流のある中国との関係の重要性を含めてご挨拶を頂きました。

4月のお花見会を次の交流の場として楽しみにして、様々な話題の花を咲かせる春節のお祝いとなりました。

千葉市日中友好協会

第15号

2023年12月25日

活動ニュース

発行 千葉市日中友好協会

編集責任者 布施貴良

事務局 千葉市美浜区高洲 3-4-12-101

電話 043-277-1212 FAX 043-278-9966

E-Mail: m-fuse@mvh.biglobe.ne.jp

日中平和友好条約締結 45 周年を契機に友好活動の発展を目指しましょう

千葉市日中友好協会会長 布施貴良

11月15日、千葉県日中友好協会は、千葉市日中友好協会等の県内各地区日中、法人委員会と共催で、「日中平和友好条約締結 45 周年記念講演会」を開催しました。

講師には、城西国際大学大学院教授孫根志華先生(演題『インバウンド国際医療から見た日中交流』)、フリーランス編集者・千葉県日中常任理事朝浩之先生(演題『見誤るな、直視せよ、中国の現状』) 矢吹晋著作選集の編集を終えて)を迎えて、講演頂きました。講演内容については、千葉県日中ミニコミ紙第 159 号を参照ください。

講演に先立ち、石橋清隆県日中会長、徐躍進法人委員会委員長の挨拶を頂き、それぞれ今後の日中友好活動の意義、重要性について述べられました。また、千葉県議会議員川村博章様からも、お祝いのメッセージを頂きました。

日中平和友好条約締結 45 周年を迎えた昨今の日中関係を俯瞰すると、関係の発展というよりは、停滞若しくは懸念の課題が増えていると言わざるを得ないと思います。

米国内の中国脅威論とそれに呼応する日本の一部反中勢力による、中国の「台湾軍事進攻」論に、日本の国内世論が引きずられているように見えることが懸念されます。一方福島原発の「処理水」放出をめぐり、中国が日本からの海産物の全面輸入禁止措置を取ったことも、反中感情を高め残念な事態でした。

こうした状況下での日中友好活動は、一定の困難に直面せざるを得ませんが、そうであればこそ

【お知らせコーナー】

【2024 年度千葉市日中友好協会】

総会 2024 年 2 月 10 日(土)

10 時～千葉県教育会館 604 会議室

春節の集い(同日)

12 時～中華料理店永興

帰るべきは 45 年前の「日中平和友好条約」の精神だと思います。

先ず日中の経済関係から見てみると、日本の貿易相手国は、輸出、輸入それぞれ中国が第一位です。2022 年度の日本の輸出 19.4%が中国であり米国が 18.5%で続きます。3位は韓国で 7.3%。以下は数%と一桁台です。輸入についても同様で、第一位は中国の 21.0%、第 2 位は米国の 9.9%、3 位がオーストラリアの 9.8%と続いています。このように、日本の経済は、圧倒的に中国と深い関係にあります。中国との関係抜きに日本の経済発展はあり得ないと言えます。

経済的、軍事的に台頭する中国に対して、アメリカは半導体等の先端技術の発展を抑え込むため、日本を含む G7 西側諸国に「経済安保」政策を厳しく課して対抗しています。しかし、今年 3 月に発表された、オーストラリアのシンクタンク「豪戦略政策研究所」のレポートによれば、多くの先端技術分野で既に中国は、米国は元より世界を圧倒しているということです。今後この差はますます広がるでしょう。23 年の中国の経済成長率は、前年比+5.3%です。一部で言われている「中国経済崩壊」はあり得ない現実です。

こうした状況を踏まえれば、日本のこれからの発展は、日中の平和友好促進こそが行く

べき道だと思います。来年も私たちが出来る民間の友好活動を地道に進めていきましょう。

日本国と中華人民共和国との間の平和友好条約

日本国及び中華人民共和国は、千九百七十二年九月二十九日に北京で日本国政府及び中華人民共和国政府が共同声明を発出して以来、両国政府及び両国民の間の友好関係が新しい基礎の上に大きな発展を遂げていることを満足の意をもつて回顧し、前記の共同声明が両国間の平和友好関係の基礎となるものであること及び前記の共同声明に示された諸原則が厳格に遵守されるべきことを確認し、国際連合憲章の原則が十分に尊重されるべきことを確認し、アジア及び世界の平和及び安定に寄与することを希望し、両国間の平和友好関係を強固にし、発展させるため、平和友好条約を締結することに決定し、このため、次のとおりそれぞれ全権委員を任命した。

日本国 外務大臣 園田 直
中華人民共和国 外交部長 黄 華

これらの全権委員は、互いにその全権委任状を示し、それが良好妥当であると認められた後
次のとおり協定した。

第一条

1 両締約国は、主権及び領土保全の相互尊重、相互不可侵、内政に対する相互不干渉、平等及び互恵並びに平和共存の諸原則の基礎の上に、両国間の恒久的な平和友好関係を発展させるものとする。

2 両締約国は、前記の諸原則及び国際連合憲章の原則に基づき、相互の関係において、すべての紛争を平和的手段により解決し及び武力又は武力による威嚇に訴えないことを確認する。

第二条 両締約国は、そのいずれも、アジア・太平洋地域においても又は他のいずれの地域においても覇権を求めるべきではなく、また、このような覇権を確立しようとする他のいかなる国又は国の集団による試みにも反対することを表明する。

第三条 両締約国は、善隣友好の精神に基づき、かつ、平等及び互恵並びに内政に対する相互不干渉の原則に従い、両国間の経済関係及び文化関係の一層の発展並びに両国民の交流の促進のために努力する。

第四条 この条約は、第三国との関係に関する各締約国の立場に影響を及ぼすものではない。

第五条

1 この条約は、批准されるものとし、東京で行われる批准書の交換の日に効力を生ずる。この条約は、十年間効力を有するものとし、その後は、2の規定に定めるところによって終了するまで効力を存続する。

2 いずれの一方の締約国も、一年前に他方の締約国に対して文書による予告を与えることにより、最初の十年の期間の満了の際またはその後いつでもこの条約を終了させることができる。

以上の証拠として、各全権委員は、この条約に署名調印した。

千九百七十八年八月十二日に北京で、ひとしく正文である日本語及び中国語により本書二通を作成した。

日本国のために 園田 直（署名）

中華人民共和国のために 黄 華（署名）

活動ニュース

中華人民共和国成立 74 周年並びに中日 平和友好条約締結 45 周年記念レセプション開催

9 月 28 日、在日本中国大使館主催の「中華人民共和国成立 74 周年並びに中日平和友好条約締結 45 周年記念レセプション」が、東京のホテルニューオータニで開催されました。

会場は、約 1500 人の友好団体代表等の参加者でいっぱいとなりました。主催者の呉江浩中国大使のご挨拶に続き、福田康夫元首相他の来賓挨拶があり、野田毅元衆議院議員の乾杯のご発声の後、終始和やかな懇談の輪が広がり、友好ムードを盛り上げました。千葉県日中友好協会からは、県連会長代行布施と小野崎一男理事長が出席しました。

呉江浩中国大使は、主催者挨拶の中で「中国経済は、コロナを克服し 2023 年度 5 % 台の経済成長を達成する見通しであり順調である。10 月には、『一帯一路』国際フォーラムが 90 か国以上の参加を得て北京で開催され、中国の国際社会への貢献と役割は増々高まっている。習近平主席は、『人類運命共同体』の理念をもって、(多極化世界を目指し)中国外交を進めている」と語り、「今年が中日平和友好条約締結 45 周年にあたり、その精神に基づき日中友好を一層発展させたい」と力強く表明されました。来賓としては、福田元首相に加えて、日中友好促進国会議員連盟会長二階俊博衆議院議員、公明党山口那津男代表、十倉雅和経団連会長が出席され、それぞれご挨拶がありました。

なお、千葉県関係として、書家の種谷萬城先生ご夫妻、篆刻の和中繁明先生、千葉県書道連盟顧問辻本大雲先生もお見えになり、懇談いたしました。また中国大使館で千葉県日中の窓口になって頂いている聶佳参事官も挨拶に来てくれました。



呉江浩中国大使



福田康夫元首相



中国文化センターにて(2023.6)

上海から視察団来る

9月27日、上海市民間事業者が千葉市美浜区幸町2丁目の高齢者介護施設「しょうじゅ美浜」を視察に訪れました。千葉市日中友好協会会員の趙詩蔓さんからの依頼で、千葉市内で介護施設の視察をしたいと要請があり、受け入れました。

視察に来訪したのは、上海市で介護用品、健康器具を扱っている上海傑棒実業有限会社方文哲代表取締役、日本関連会社スキルネット株式会社代表取締役金山友子氏、同社員橋本憲男氏の3名で、趙会員と布施が案内しました。

「しょうじゅ美浜」の北原由美施設長から、特別養護老人ホームしょうじゅ美浜、デイサービスセンター、併設のサービス付き高齢者向き住宅、診療所等複合的福祉施設の内容について説明があり、その後施設の見学をしました。ユニットケアの居室、寝たきりの入所者でも入れる入浴施設、一日600食を調理する給食施設を見学し、入所高齢者に配慮し整った介護と施設内容に、感心しました。

中国では、日本同様に高齢化が進んでおり、視察事業者は今後の中国における事業展開に大いに参考になりますと施設長に感謝して、施設を後にしました。

なお、写真は施設玄関ホールに飾られていた手作りの海中を模したオブジェです。運転と施設管理の職員さんが不用品を活用して作成したということですが、磁石で紙のお魚の釣りもできるようで、素晴らしい出来栄えに入所者も楽しんでいるということでした。



布施と北原施設長



趙さんと北原施設長

千葉県日中友好協会 第13号(7, 8月合併号)

2023年8月25日

活動ニュース

発行 千葉県日中友好協会

編集責任者 布施貴良

事務局 千葉県美浜区高洲 3-4-12-101

電話 043-277-1212 FAX 043-278-9966

E-Mail : m-fuse@mvh.biglobe.ne.jp

千葉県日中友好協会と千葉大学中国人留学生学友会共催で
4年ぶりにサマーツアーを実施(7月8日～9日)



7月8日(土)～9日(日)に千葉県日中友好協会(布施貴良会長)と千葉大学中国人留学生学友会(湯旭東会長)の共催で合計40人(社会人7人、留学生28人、研究員4人、幼児1人)が4年ぶりにサマーツアーを実施しました。

天気予報では2日間とも雨でしたが実際には偶に雨は降ったものの、屋外活動にはほとんど影響ありませんでした。初日は遅刻者、キャンセル者も全くおらず朝7時に稲毛の千葉大学国際交流会館付近からバスは出発しました。先ず修善寺、竹林小径散策、昼食の後、恋人岬金の鐘に行きその後、伊東のホテルに到着、浜辺で全員スイカ割を実施、2つのスイカは見事に割れました。ホテルの夕食はバイキング飲み放題、つづいてホテル内のカラオケ、卓球にそれぞれ興じて夜9時には自由行動。翌日は、朝9時ホテル出発、午後1時に別件予定があった布施会長を修善寺駅までみんなで見送り、その後、大室山でリフトに乗り山頂に行きました。あいにく強風で散策は禁止となっていました。景色良く写真撮影会となりました。その後、城ヶ崎海岸のつり橋を渡り、マリンタウンで昼食、千葉大学に帰ってきたのは夜の7時半くらいでした。

久しぶりのサマーツアーは皆さん「楽しかった」との声続出で秋のイベントでまたの再会を約束しました。

千葉県日中友好協会理事 越智 優

福島原発処理水の海洋放出問題を憂う

政府は、福島原発のALPSという放射性物質を除去する装置を通した処理水を海洋放出することを決定し、8月24日から実施した。

このことについて、漁業者は「安全性」について一定の理解を示しつつも、「風評被害」は免れずしかも30年にわたる海洋放出にはあくまでも反対するという姿勢を崩さなかった。

筆者は、2011年3月11日の東日本大震災に際して、福島原発の重大事故による福島産農産物の「風評被害」に対して、「放射能とは何か」、「放射能と食品の安全性」をテーマに専門家を招き地域の講演会を開催して、福島産農産物の展示即売会を開き、購入支援活動を行って来た。その立場から、福島県漁連など漁業者の心情を理解し、その要求を強く支持する。

政府と東電は、「風評被害」の防止にさらに努めて、海洋放出のみにこだわることなく、大気中への水蒸気放出等の方法も同時に検討し、海洋放出量を少しでも減少させるべきである。

中国は、今回の処理水の海洋放出に強く反対し、日本からの水産物輸入の全面禁止措置を実施した。その影響は、日本全体の水産業に取って極めて大きなものである。このような中国の対応は当然予測できたはずであるにもかかわらず、政府が十分な対応をしたとは思えない。6日前の18日日米間の首脳会談がアメリカキャンプ・デービッドで開かれ、北朝鮮問題と共に、中国への経済的・軍事的包囲網を強化することが合意された。この際処理水の海洋放出について、米韓の理解を得れば良しとする政府の対応には、大きな疑問を感じる。

海洋放出について中国がどのような対応を取るかを知っていて、敢えて中国にそのような対応を取らせ、国民の対中感情をさらに悪化させ、対米追従の安保政策の隠れ蓑にしようとするのであれば、それこそ国益の重大な損失である。

政府は、処理水の海洋放出について中国政府の理解を得るべく今後さらに努めるとも

カ追従を改め、1972年の田中・周恩来による「国交正常化共同宣言」の精神に立ち返り、日中関係の改善に腹を据えて取り組むべきであると考ええる。

2023年8月25日 布施貴良

中国の若者失業は深刻な問題か？

一部のニュースによれば、中国で若者の失業率が20%以上に達して、ますます深刻化していることから、中国政府統計局は若者の失業率の公表を止めたとの報道がある。

しかし、そもそも失業の定義が日本とは違って、中国では、①過去三か月間の中で仕事をしたか仕事を探したことがあること、②調査期間中に仕事をしていない、③現在就労可能な状態である、の三要件全てに該当することで失業者と判断される。

中国の若者は、毎年6月には大学入学資格試験「高考」があり、7月に発表があるまでアルバイト等に就労するものが多く、7月の「高考」発表後は、9月大学進学に備えてアルバイト等の仕事は止めて勉強に励むことになる。そうすると、7月の若者の失業率はおのずから高くなり、9月には学生となって失業統計からは外れて、失業率は低下することになる。このことから、中国の「若者の失業率」は、「深刻」な経済不況を反映しているというより、統計データの取り方の問題である。このような「中国の若者失業は深刻な問題」といった一部報道は、意図的な中国に対する歪曲した見方と言わなければならない。

中国関係書籍の紹介

- 「チャイナウオッチ矢吹晋著作選集」発行所 未知谷朝浩之氏（千葉県日中友好協会所属）編
- 「それでも 習近平政権 崩壊しない4つの理由」富坂聡著 発行 ビジネス社
- 「日本におけるメデイカルツーリズムから医療国際化への進化」著者 劉旭傑 孫根志華（千葉県日中友好協会会員） 発行 学文社

活動ニュース

2023.6.13

在日本中国大使館訪問の旅 報告

6月13日、千葉県日中の主催で3年ぶりの中国大使館訪問の旅を実施しました。当日は、県下から現地参加を含めて26名が参加し、千葉市日中から布施会長、河野事務局長、若林さん、能勢さんが参加しました。

午前中は、港区虎の門にある東京中国文化センターを見学しました。パンダのオブジェが玄関でお出迎えです。はじめに、羅玉泉センター長から歓迎の挨拶があり、文化センターの展示やイベントの紹介がありました。その後、欧陽安中国駐東京観光代表処首席代表から、挨拶と展覧会「中国長江美発見」の紹介があり、長江の雄大で美しい写真を鑑賞。さらに長江流域のビデオを鑑賞しました。最後に長谷川副会長がお礼のあいさつをしてセンターを後にしました。

旅行クーポンを使うため、久しぶりに東京タワーに向かいお買い物。60数年前、小学校の遠足で来た頃を思い出しました。その後近く中華レストランで食事し、中華料理に舌鼓を打ちました。

午後、中国大使館を訪問しました。玄関では、呉江浩大使ご夫妻の他、聶佳参事官等館員の出迎えの中、呉大使から歓迎のご挨拶を受けました。

大使は、自分の名前を紹介する際に、千葉市の友好都市蘇州市呉江区の「呉江」ですとユーモアを交えて自己紹介され、歓迎の言葉を頂き、その後大使ご夫妻を交えて記念撮影しました。大使ご夫妻はその後退席されましたが、館内でレセプションが開かれ、参加者の紹介と結び、佐々木久昭会

長が挨拶を行いました。その後、中国に関するビデオの放映があり、それをヒントとしたクイズ大会となり、中国通を自任している面々でしたが、なかなか難しい。それでも私は、一問正解で面目を果たしました。その後、青年外交官が10人位参加して、それぞれ担当の仕事を紹介しながら和やかに懇談しました。おいしいおやつも出されて、皆さん何度もビュッフェを往復していました。

最後に中庭を散策し、梅雨の晴れ間の穏やかな大使館訪問を終えました。



中国文化センターのパンダのオブジェ



大使館前で呉大使夫妻との記念写真

呉大使 「友好感情の再構築を」

都内で着任 レセプション 中日間の現状には危機感

中国の呉江浩駐日本国特命全権大使の着任レセプションが5月9日、東京都内で開催され、福田康夫・鳩山由紀夫両元首相、友好団体の代表など、各界から1000人以上が参加した。楊宇首席公使が司会を務めた。



当協会など各界 1000人以上が参加した着任レセプションでスピーチする呉大使(中央)

3回目の日本勤務となる呉大使はスピーチで、「中日関係が肝心な段階にある中、駐日大使を拜命したことは光榮な使命であり、重要な責任がある」とあいさつ。近年、日中両国の互恵協力が拡大し、経済の融合が深化しつつある例として、両国間の貿易額や訪日中国人観光客数の増大を挙げ、「日本でもさまざまな中国ブランドの中国グルメを、中国と変わらない味で楽しめるようになり、中国のスーパーでは日本の特産品を簡単に購入できるようになった」と国民生活レベルでの関係深化を評価した。

また、一部の国の動向を念頭に「かつてな

いほど複雑な中日間の現状がある」とし、現在の両国関係が外部要因による著しい妨害を受けており、これまでにない新たな問題、リスク課題が多く現れていること」に危機感を示す一方、着任後のあいさつ回りで日本の各界の人々に会った際に



(左2から) 丁玥大使夫人、呉江浩大使、福田康夫元首相、楊宇首席公使

「困難に遭遇しても中日関係の重要性は変わらず、平和・友好・協力の方向性を変えてはならない」と意見が一致したことに勇気づけられ、「困難に一層立ち向かい、新しい時代の要請にふさわしい中日関係の構築を推進する」と意欲を述べた。

そのために必要なこととして、①相互理解の増進②長年の懸案事項についてはこれまでの合意を遵守、新たに生じた矛盾や相違については共に解決方法を模索③公平、オープンでバランスのとれた協力の深化④友好活動の活性化の4つを列挙、特に④について、「民間友好は中日関係ならではの強みであり、友好人士が幾世代にもわたって築き上げ、受け

たって築き上げ、受け継いできた素晴らしい伝統」であり、日中平和友好条約締結45周年の今年、新型コロナウイルス感染症対策の緩和を契機に「人的往来を再開し、青少年交流を拡大し、両国の人々がフェイス・トゥ・フェイス(対面)のやり取りで心のふれあいを深め、友好感情を再構築しなければならぬ」と語り、日本の各界に協力を求めた。

3月31日に北京で中国の外交トップ・王毅政治局長と会談した福田元首相は、乾杯のあいさつで「3年ぶりの中国は落ち着いていた。ぜひ中国に行き、発展や変化をそれぞれの目で実際に確かめていただきたい」と述べた。

その後、呉大使は丁玥夫人と共に多くの参加者と意見を交わし、交流を行った。呉大使は4月28日、東京・内幸町の日本記者クラブで講演した際、「中日関係は重大な岐路にある」と指摘していた。(▼2面11日本記者クラブで講演)

(発行)公益社団法人日本中国友好協会
「日本と中国」
2023.6.1 NO2277号より

活動ニュース

「牧久氏著『転生』を語る会」

—5月27日(土)開催—

千葉市日中友好協会では、近現代史における日中の関わりを学び、これからの日中友好活動に生かすため、「牧久氏著『転生』を語る会」を開催しました。牧久氏は、元日経新聞記者から副社長になられた方で、千葉市稲毛区在住です。

『転生』は、副題に一満州国皇帝・愛新覚羅家と天皇家の昭和一とあり、関東軍の傀儡と言われている満州国皇帝となった愛新覚羅溥儀と皇弟溥傑の数奇な運命すなわち「転生」を描いた、膨大な資料に基づくドキュメンタリー作品です。皇弟愛新覚羅溥傑が公家の娘、嵯峨浩と結婚して新婚時代を過ごした「仮寓」が、稲毛浅間神社隣接地に「千葉市ゆかりの家・いなげ」として保存されていることから、会場をそのすぐ近くの稲毛公民館で開催しました。

当日は、千葉市日中及び千葉県日中の会員を中心に小野崎県日中理事長、たじま要衆議院議員も参加され、約 25 人の方が集まり講師の牧先生のお話を熱心に聞き入り、活発に質問、意見交換しました。

牧先生は、千葉市の稲毛に住んでジョギングを始めると、偶然「白雲木」の白い甘い香りに誘われ、愛新覚羅溥傑夫妻の仮寓として保存されている「千葉市ゆかりの家・いなげ」

に出会ったということでした。溥傑は、稲毛郊外にあった陸軍歩兵学校に配属されたことから、新婚時代の住居をこの地に構え馬で

こうしたことから、愛新覚羅兄弟の数奇な運命に興味を持ち資料の収集をしながら、「満州国とは何だったのか」と考え直すきっかけとなり、この本を上梓したとお話がありました。

意見交換の中では、最近の日中関係、尖閣問題や台湾海峡の「緊張」が喧伝される中で、「1972年の周恩来・田中角栄共同声明に立ち返るべきである」と牧先生から指摘があり、そのことの重要性を参加者で確認をして、会を終了しました。

その後、すぐ近くの溥傑夫妻の仮寓「千葉市ゆかりの家・いなげ」を参加者一同で見学しました。

講師の牧久先生と「ゆかりの家」見学の参加者



2023年サマーツアーのご案内

行 動 内 容

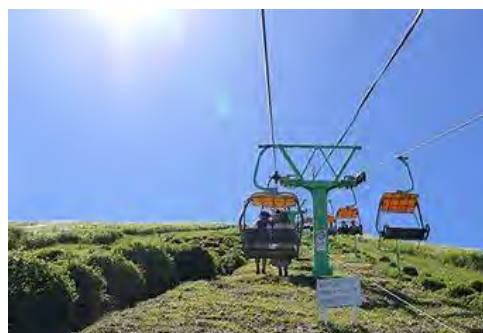
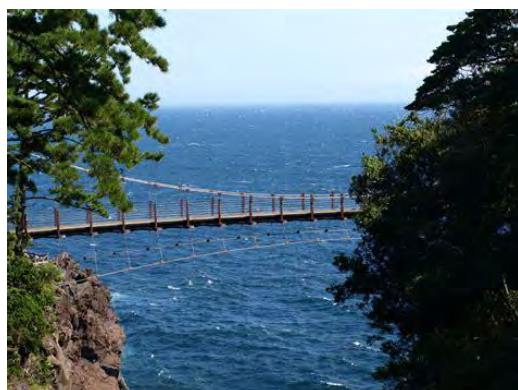
旅行期間 2023年7月8日(土)～7月9日(日) 1泊2日間

一日目：1200年の歴史を持つ、お寺と温泉の街。伊豆の小江戸「修善寺」。

海一望温泉宿、二食ともバイキング、ご夕食では和洋中バイキングとアルコール・ソフトドリンクが飲み放題。



二日目：標高580mの独立峰「大室山（おおむろやま）」。お椀を伏せたようなかたちで伊豆高原のシンボリックな存在です。城ヶ崎海岸：自然の神秘が創り出した壮大な景色に感動！



●主催／千葉市日中友好協会・千葉大学中国人留学生学友会

●集合場所／千葉大学国際交流会館西側入口前

●募集人数／留学生30名前後、社会人等10名前後

●参加費／社会人20,500円 留学生14,500円、小学生15,500円 3歳以上の幼児10,500円（小学生以下は千葉大学学友会関係者に限る。）

費用に含まれるもの（バス代、ホテル宿泊費、食費夕食、朝食、スイカ代、保険代）

費用に含まれないもの（集合地までの交通費、昼食2回、リフト代、入場料など）

申込先：越智（おち）yuezhiyou@gmail.com 布施貴良事務所 m-fuse@mvh.biglobe.ne.jp

〒261-0004 千葉市美浜区高洲 3-4-12-101 TEL 043-277-1212 FAX 043-278-9966

申し込み締め切り6月20日（火）先着順

※ ご参加ご希望者には、別途申込書をお届けいたします。

活動ニュース

牧久氏著「転生」を語る会のご案内

近年における日中関係の歴史を知り、日中友好活動の一助とするため、下記のとおり「牧久氏著『転生』を語る会」を開催することと致します。

『転生』は、一満州国皇帝・愛新覚羅家と天皇家の昭和一を副題とし、清朝最後の皇帝溥儀と溥傑兄弟の数奇な運命を、膨大な歴史資料と現地取材で編まれたノンフィクションです。戦前戦後の日中関係を読み解き、今後の日中友好を考えるうえで、重要な示唆に富む著作です。

著者の牧久氏(元日経新聞記者、副社長、テレビ大阪社長歴任)稲毛区在住であり溥儀の仮寓が現在「千葉市ゆかりの家・いなげ」として稲毛浅間神社の裏手に保存されていることから、これらにちなみ本会を開催いたしました。是非ご参加くださるようご案内いたします。

記

日時 5月27日(土)午後1時30分から15時

場所 千葉市稲毛公民館 2階 講堂
千葉市稲毛区稲毛 1-10-17

Tel 043-243-7425

稲毛浅間神社東鳥居隣 京成稲毛駅徒歩5分
JR 稲毛駅徒歩15分

参加費 無料 ※参加申し込み方法

FAX またはメールでお申し込みください。

※会終了後愛新覚羅溥儀の仮寓「千葉市ゆかりの家・いなげ」を見学します。

【お知らせコーナー】

令和5年お花見会中止

3月26日に予定していました千葉大学中国人留との生「お花見会」は、悪天候のため残念ながら、中止となりました。

川村博章千葉市議会議長からは、心温まるメッセージを頂きましたが、読み上げることが出来ませんでした。ご厚意に感謝申し上げます。

牧久氏著「転生」を語る会 参加申込書

下記のとおり申し込みます。

2023年 月 日

氏名	
住所	〒
所属	
電話番号	
E:Mail	

(参加方法○で囲んでください)

会場 ZOOM

申込先 布施貴良事務所

Fax と E:Mail 043-278-9966

m-fuse@mvh.biglobe.ne.jp



シャンシャン 上野動物園時代

(撮影日：2022年12月19日) 東京ゾーネットホームページより

パンダの「シャンシャン」 中国での動画初公開 元気な姿見せる

2023年4月10日 19時05分

上野動物園で生まれ、ことし2月に中国に返還されたパンダの「シャンシャン」の姿を撮影した動画が返還後初めて公開され、およそ1か月半ぶりに元気な姿を見せました。上野動物園で生まれたメスのジャイアントパンダ「シャンシャン」は、中国と結んだ協定に基づいてことし2月に返還されました。

現在、シャンシャンは内陸部・四川省にある「中国ジャイアントパンダ保護研究センター」で過ごしていて、返還後の様子を撮影した動画が10日、初めて中国のSNS上で公開されました。

動画は飼育員が今月7日に撮影したもので、シャンシャンがたけのこを音を立てながら食べるなど元気そうな姿が見られました。中国ジャイアントパンダ保護研究センターによりますと、シャンシャンは比較的怖がりで見知らぬ人として、現地の環境に慣れさせるため担当の飼育員以外は必要のないかぎり近づかないようにしているということです。

シャンシャンは、早ければ今月中にも一般公開されるということです。

NHK
国際ニュースより

機会があれば、四川省に旅行して、シャンシャンを見たいですね。(筆者)

千葉市日中友好協会会員募集中!!

正会員 会費 12,000 円/年

個人賛助会員 会費 1,000 円 × 口/年 ※1 口以上

法人賛助会員 1,000 円 × 口/年 ※5 口以上

申込問い合わせは、布施貴良事務所 Tel.043-277-1212 Fax043-278-9966

E:mail m-fuse@mvh.biglobe.ne.jp